

# *ES/1 NEO*

**CSシリーズ**

MF-z/VM

使用者の手引き

第12版 2019年11月

---

©版權所有者 株式会社 アイ・アイ・エム 2019年

**© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2019**

**ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY  
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,  
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,  
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT  
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.**

**“RESTRICTED MATERIAL OF IIM “LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM**

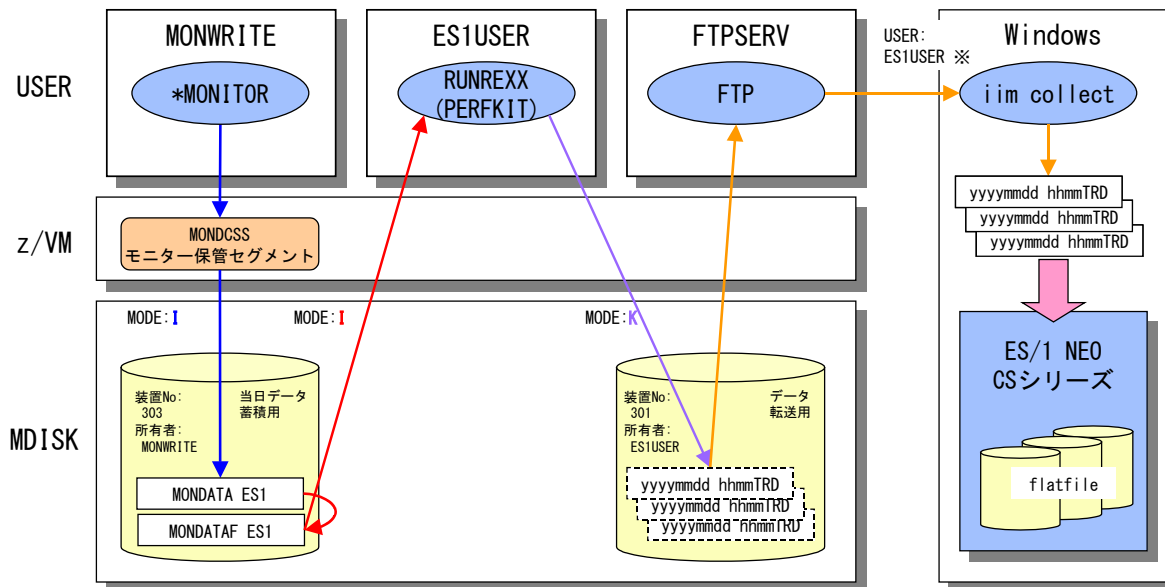
# 目次

第 1 章	MF-z/VM 運用 .....	1
1.1.	ES/1 データ収集全体図 .....	1
1.2.	Performance Toolkit 実行に必要な設定ファイル .....	2
第 2 章	導入の前に .....	3
2.1.	導入の前提条件 .....	3
2.1.1.	システム環境の前提条件 .....	3
2.2.	導入事前準備.....	4
2.2.1.	ミニディスクの確認.....	4
2.2.2.	ES/1 専用のデータ収集用仮想計算機 (ES1USER) の作成.....	5
2.2.3.	MONWRITE 仮想計算機の準備 .....	7
第 3 章	導入手順.....	11
3.1.	MONWRITE 仮想計算機への導入 .....	11
3.1.1.	PROFILE EXEC の導入 .....	11
3.2.	ES1USER 仮想計算機への導入 .....	12
3.2.1.	各種設定ファイルの導入 .....	12
3.2.2.	各種設定ファイルの内容 .....	12
3.3.	IPL 時の自動データ収集開始設定.....	20
3.4.	データ収集 .....	20
3.4.1.	データ収集の開始 .....	20
3.4.2.	データ収集の確認 .....	21
3.4.3.	ES1USER のログ書き出し機能について.....	22
3.5.	補足情報 .....	23
3.5.1.	FTP 機能 (FTPserve 仮想計算機) の設定方法.....	23
3.5.2.	Performance Toolkit のインストール確認とインストール手順 .....	24
第 4 章	iim collect .....	26
4.1.	収集方法 .....	26
4.2.	転送設定 .....	26
4.3.	実行方法 .....	27
4.4.	ロギング.....	27
第 5 章	x2f.....	28
5.1.	パフォーマンスデータファイルの配置 .....	28
5.2.	設定ファイルの作成.....	29

5.3. x2fの実行.....	30
5.4. ロギングの指定.....	31

# 第1章 MF-z/VM 運用

## 1.1. ES/1 データ収集全体図



### MONWRITE 仮想計算機

\*MONITOR によるデータ収集および MONWRITE 仮想計算機が所有する仮想装置 303 への MONDATA の書き出し。

### ES1USER 仮想計算機

MONWRITE 仮想計算機が所有する仮想装置 303 の MONDATA ファイルのコピー (MONDATAF) を読み取り Performance Toolkit (PERFKIT) を実行。

PERFKIT の結果 (TREND データ) は、ES1USER 仮想計算機所有の仮想装置 301 に書き出す。

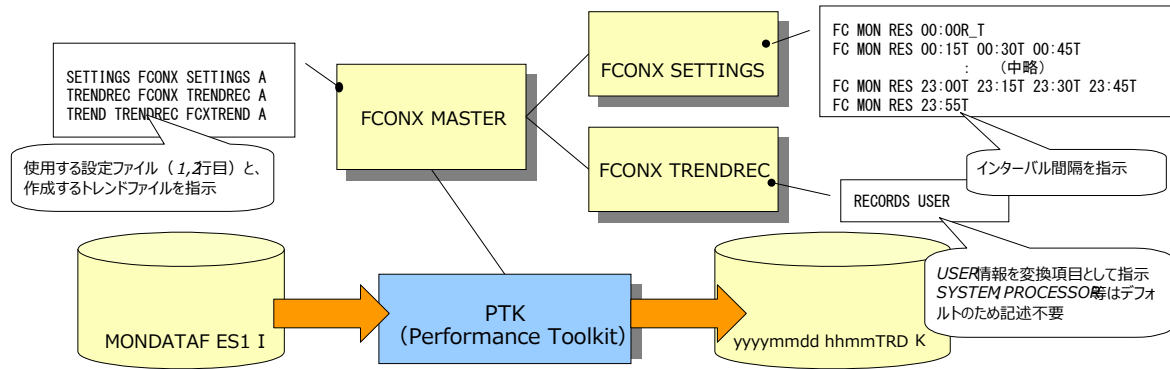
仮想装置 301 上に書き出すデータは ES/1 運用に使用する TREND データであり、FTP 転送完了後に削除される一時ファイル。

### FTPSERV 仮想計算機

仮想装置 301 上の TREND データを Windows クライアント (iim collect) に転送する。FTP は、iim collect 側から ES1USER 仮想計算機権限にて FTPSERV に接続する形で行い、FTP 完了後にファイルを削除する。Windows クライアントへの転送が完了していない TREND データはミニディスク上に残すことによりリカバリー処理を簡素化する目的。

(※FTP アクセス時には転送元ファイルが配置されているミニディスクの所有者ユーザを使用します。この場合、ES1USER ユーザ。)

## 1.2. Performance Toolkit 実行に必要な設定ファイル



Performance Toolkit の実行には複数の設定ファイルが必要です。  
データ収集スクリプトとともに以下の設定ファイルも導入します。

### FCONX MASTER

PTK 実行時に引数で指定する基本設定ファイル

### FCONX SETTINGS

MASTER ファイルから呼び出され、インターバル間隔等を設定する

### FCONX TRENDREC

MASTER ファイルから呼び出され、トレンドレコードに変換する資源項目を設定する

必要な場合にはデータ項目を追加してください。

### MONITOR データ作成時の収集設定

```
CP MONITOR SAMPLE CONFIG SIZE 1205
CP MONITOR EVENT CONFIG SIZE 340
CP MONITOR SAMPLE RATE 2 SEC
CP MONITOR SAMPLE INTERVAL 5 MIN
CP MONITOR SAMPLE DISABLE ALL
CP MONITOR EVENT DISABLE ALL
CP MONITOR SAMPLE ENABLE PROCESSOR
CP MONITOR SAMPLE ENABLE STORAGE
CP MONITOR SAMPLE ENABLE USER ALL
CP MONITOR SAMPLE ENABLE I/O ALL
```

### TREND データ作成時の収集設定

```
RECORDS USER CHANNEL VSWITCH
```

### 注意！

ES/1 NEO CS シリーズにて扱える TREND データの最小インターバル長は 5 分です。

## 第2章 導入の前に

ここでは、ES/1 NEO CS シリーズの z/VM データ収集モジュールの導入方法を説明致します。ES/1 NEO CS シリーズのセットアップに関しては、それぞれ別紙マニュアル「CS-MAGIC 使用者の手引き」を参照してください。導入に必要なファイルは CD-ROM ルート直下の「zVM」フォルダ内にあります。

### 2.1. 導入の前提条件

#### 2.1.1. システム環境の前提条件

- ① z/VM のバージョンについては、「サポート環境」の「z/VM」をご参照ください。
- ② Performance Toolkit for VM （以下 Performance Toolkit）が使用できること。  
「3.5.2 Performance Toolkit のインストール確認とインストール手順」にて記載があります。
- ③ ES/1 専用のデータ収集用仮想計算機（ES1USER）が作成できること。  
ES1USER 仮想計算機の設定は、「2.2.2 ES/1 専用のデータ収集用仮想計算機（ES1USER）の作成」にて記載があります。
- ④ MONWRITE 仮想計算機を占有できること。もしくは同等の仮想計算機を作成できること。  
MONWRITE 仮想計算機の設定は、「2.2.3 MONWRITE 仮想計算機の準備」にて記載があります。

#### **注意！**

**ES1USER 仮想計算機と MONWRITE 仮想計算機はログオフしないでください。  
ログオンした際にはディスコネクトをしてください。**

#### **注意！**

**ES1USER 仮想計算機と、MONWRITE 仮想計算機で使用するミニディスクを他の仮想計算機から WRITE 権限で LINK しないでください。**

- ⑤ AUTOLOG1 仮想計算機の PROFILE EXEC に ES1USER 仮想計算機の自動起動設定を追記可能であること。  
「3.3 IPL 時の自動データ収集開始設定」にて記載があります。
- ⑥ z/VM の FTP 機能（FTP SERVE 仮想計算機）が使用できること。  
「3.5.1 FTP 機能（FTP SERVE 仮想計算機）の設定方法」にて記載があります。
- ⑦ 時刻が日本標準時になっていること。
- ⑧ 23:55～00:05 の間にシステム再起動を行わないこと。

## 2.2. 導入事前準備

### 2.2.1. ミニディスクの確認

ES/1 の運用にて使用する ES1USER 仮想計算機、MONWRITE 仮想計算機には専用のミニディスクを割り当てる必要があります。そのためミニディスクの空き状況の確認を行う必要があります。

- ①MAINT 仮想計算機にログオンします。
- ②以下のコマンドを実行し、USER DISKMAP を参照することでミニディスクの確認を行います。  
DISKMAP USER DIRECT  
XEDIT USER DISKMAP

(例)

(省略)						
-----						
VOLUME	USERID	CUU	DEVTYPE	START	END	SIZE
B53W02	\$ALLOC\$	A03	3390	00000	00000	00001
(省略)						
	IIM03	191	3390	01866	01890	00025

上記の例では、デバイスタイプ「3390」、ボリューム「B53W02」の 1891 シリンダー目からが空いています。

- ③ミニディスクを確認後、ES1USER 仮想計算機および、MONWRITE 仮想計算機にて使用するデバイスタイプ、ボリューム、シリンダーの開始位置を決定します。

それぞれの仮想計算機にて必要な容量は以下の通りです。

ES1USER 仮想計算機

- A ディスク (仮想アドレス 191) : 10 シリンダー以上
- K ディスク (仮想アドレス 301) : 200 シリンダー以上

MONWRITE 仮想計算機

- A ディスク (仮想アドレス 191) : 10 シリンダー以上
- I ディスク (仮想アドレス 303) : 1500 シリンダー以上

- ④MAINT 仮想計算機をログオフします。



### 2.2.2. ES/1 専用のデータ収集用仮想計算機 (ES1USER) の作成

以下の手順に従い ES1USER 仮想計算機の作成を行います。

#### USER DIRECT ファイルへの追記

- ① MAINT 仮想計算機にログオンします。
- ② 以下のコマンドを実行し、ディレクトリーファイル「USER DIRECT」を開きます。  
XEDIT USER DIRECT
- ③ ディレクトリーファイル「USER DIRECT」の一番下に下記の設定を追記します。

```
*
USER ES1USER  ES1USER 256M 512M AEG
MACHINE XA
ACCOUNT XXXXX
IPL CMS
OPTION QUICKDSP
SHARE ABSOLUTE 3%
IUCV *MONITOR MSGLIMIT 65535
NAMESAVE MONDCSS
CONSOLE 0009 3215
SPOOL 000C 2540 READER *
SPOOL 000D 2540 PUNCH A
SPOOL 000E 1403 A
LINK MAINT 190 190 RR
LINK MAINT 19D 19D RR
LINK MAINT 19E 19E RR
MDISK 191 (DEVTYPE) (開始位置) (サイズ) (VOLSER)  MR READ      WRITE      MULTIPLE
MDISK 301 (DEVTYPE) (開始位置) (サイズ) (VOLSER)  MR READ      WRITE      MULTIPLE
```

デバイスタイプ、開始位置、VOLSER は「2.2.1 ミニディスクの確認」で確認した値を指定します。

各ディスクのサイズ指定を以下の通りに指定します。

A ディスク (仮想アドレス 191)	: 10 シリンダー以上
K ディスク (仮想アドレス 301)	: 200 シリンダー以上

リンクパスワードは読み込み、書き込み、多重書き込みパスワードをそれぞれ「READ」「WRITE」「MULTIPLE」とすること。

(例)

MDISK 191 3390 1891	10 B53W02	MR READ	WRITE	MULTIPLE
MDISK 301 3390 1901	200 B53W02	MR READ	WRITE	MULTIPLE

- ④ 以下のコマンドを実行し、追記した内容を登録します。  
DIRECTXA USER DIRECT
- ⑤ 以下のコマンドを実行し、ミニディスクに重複が無いことを確認します。  
DISKMAP USER DIRECT  
XEDIT USER DISKMAP

(例)アドレスの 101～200 ままで重複しているため、「OVERLAP」表示あり

(省略)						
-----						
VOLUME	USERID	CUU	DEVTYPE	START	END	SIZE
540W02	\$ALLOC\$	A03	3390	00000	00000	00001
	5VMHCD40	2D2	3390	00001	00200	00200
	5VMHCD40	300	3390	00101	00380	00480 OVERLAP
(省略)						

⑥MAINT 仮想計算機をログオフします。

## ミニディスクのフォーマット

設定したミニディスクは使用前にフォーマットを行う必要があります。

- ①ES1USER 仮想計算機にログオンします。この際『DMSACP112S A(191) device error』のメッセージが出ますが無視してください。
- ②以下のコマンドを実行し、A(191) ディスクのフォーマットを行います。  
FORMAT 191 A

```
DMSACP112S A(191) device error
FORMAT 191 A
DMSFOR603R FORMAT will erase all files on disk A(191). Do you wish to continue?
Enter 1 (YES) or 0 (NO).
1
DMSFOR605R Enter disk label:
ES1INI
DMSFOR733I Formatting disk A
DMSFOR732I 10 cylinders formatted on A(191)
Ready; T=0.01/0.01 13:33:58
```

### 注意！

Enter 1 (YES) or 0 (NO). メッセージで入力を促された場合、「1」以外を入力すると NO として認識されフォーマットは実行されません。

「1」「1」等(1の前後のスペース)にご注意ください。

- ③A(191) ディスクと同様に、K(301) ディスクに対してフォーマットを行います。

```
LINK ES1USER 301 301 MW PASS=MULTIPLE
ACC 301 K
FORMAT 301 K
```

```
LINK ES1USER 301 301 MW PASS=MULTIPLE
Ready; T=0.01/0.01 13:27:56
ACC 301 K
DMSACP112S K(301) device error
Ready(00100); T=0.01/0.01 13:28:03
FORMAT 301 K
DMSFOR603R FORMAT will erase all files on disk K(301). Do you wish to continue?
Enter 1 (YES) or 0 (NO).
1
DMSFOR605R Enter disk label:
ES1301
DMSFOR733I Formatting disk K
DMSFOR732I 50 cylinders formatted on K(301)
Ready; T=0.01/0.01 13:33:58
```

**注意！**

Enter 1 (YES) or 0 (NO). メッセージで入力を促された場合、「1」以外を入力すると NO として認識されフォーマットは実行されません。  
「1」「 1」等(1の前後のスペース)にご注意ください。

- ④各ディスクにアクセスし、デバイスエラーが出ないことを確認します。

(例)K(301)ディスクの場合

```
LINK ES1USER 301 301 MW PASS=MULTIPLE
ACC 301 K
```

```
LINK ES1USER 301 301 MW PASS=MULTIPLE
Ready; T=0.01/0.01 13:27:56
ACC 301 K
Ready(00100); T=0.01/0.01 13:28:03
```

- ⑤ES1USER 仮想計算機をログオフします。

### 2.2.3. MONWRITE 仮想計算機の準備

- ①MAINT 仮想計算機にログオンします。
- ②以下のコマンドを実行し、ディレクトリーファイル「USER DIRECT」を開きます。  
XEDIT USER DIRECT
- ③以下の検索コマンドにて MONWRITE 仮想計算機の設定まで移動します。  
/MONWRITE
- ④ディレクトリーファイル「USER DIRECT」の MONWRITE 仮想計算機を下記の条件に従い修正します。
  - ・仮想記憶域の割り当てを 256MB 以上にすること。(512MB 推奨)
  - ・BEG の権限を持つこと。

- ・IUCV のサイズは MAX 値である 65535 を指定すること。
- ・以下の条件を満たすミニディスクの設定を行うこと。

デバイスタイプ、開始位置、VOLSER は「2.2.1 ミニディスクの確認」で確認した値を指定します。各ディスクのサイズ指定を以下の通りに指定します。

A ディスク (仮想アドレス 191) : 10 シリンダー以上  
I ディスク (仮想アドレス 303) : 1500 シリンダー以上

リンクパスワードは読み込み、書き込み、多重書き込みパスワードをそれぞれ「READ」「WRITE」「MULTIPLE」とすること。

(修正例)

```
*
USER MONWRITE MONWRITE 512M 512M BEG
MACHINE XA
ACCOUNT XXXXX
IPL CMS
OPTION QUICKDSP
SHARE ABSOLUTE 3%
IUCV *MONITOR MSGLIMIT 65535
NAMESAVE MONDCSS
CONSOLE 009 3270 T
SPOOL 00C 2540 READER *
SPOOL 00D 2540 PUNCH A
SPOOL 00E 1403 A
LINK MAINT 0190 0190 RR * CMS system disk
LINK MAINT 019D 019D RR * help disk
LINK MAINT 019E 019E RR * Product code disk
MDISK 191 (DEVTYPE) (開始位置) (サイズ) (VOLSER) MR READ WRITE MULTIPLE
MDISK 303 (DEVTYPE) (開始位置) (サイズ) (VOLSER) MR READ WRITE MULTIPLE
```

- ⑤以下のコマンドを実行し、追記した内容を登録します。

DIRECTXA USER DIRECT

- ⑥以下のコマンドを実行し、ミニディスクに重複が無いことを確認します。

DISKMAP USER DIRECT

XEDIT USER DISKMAP

(例)アドレスの 101～200 ままで重複しているため、「OVERLAP」表示あり

(省略)

VOLUME	USERID	CUU	DEVTYPE	START	END	SIZE	
540W02	\$ALLOC\$	A03	3390	00000	00000	00001	
	5VMHCD40	2D2	3390	00001	00200	00200	
	5VMHCD40	300	3390	00101	00380	00480	OVERLAP

(省略)

- ⑦MAINT 仮想計算機をログオフします。

## ミニディスクのフォーマット

設定したミニディスクは使用前にフォーマットを行う必要があります。

標準割り当ての A(191)ディスクを使用する場合はフォーマットが必要ない場合があります。

- ① MONWRITE 仮想計算機にログオンします。この際『DMSACP112S A(191) device error』のメッセージが出る事がありますが無視してください。
- ② 以下のコマンドを実行し、A(191) ディスクのフォーマットを行います。

FORMAT 191 A

```
DMSACP112S A(191) device error
FORMAT 191 A
DMSFOR603R FORMAT will erase all files on disk A(191). Do you wish to continue?
Enter 1 (YES) or 0 (NO).
1
DMSFOR605R Enter disk label:
MONINI
DMSFOR733I Formatting disk A
DMSFOR732I 10 cylinders formatted on A(191)
Ready; T=0.01/0.01 13:33:58
```

### 注意！

Enter 1 (YES) or 0 (NO). メッセージで入力を促された場合、「1」以外を入力すると NO として認識されフォーマットは実行されません。

「1」「 1」等(1の前後のスペース)にご注意ください。

- ③ A(191) ディスクと同様に、I(303) ディスクに対してフォーマットを行います。

LINK MONWRITE 303 303 MW PASS=MULTIPLE

ACC 303 I

FORMAT 303 I

```
LINK MONWRITE 303 303 MW PASS=MULTIPLE
Ready; T=0.01/0.01 13:27:56
ACC 303 I
DMSACP112S I(303) device error
Ready(00100); T=0.01/0.01 13:28:03
FORMAT 303 I
DMSFOR603R FORMAT will erase all files on disk I(303). Do you wish to continue?
Enter 1 (YES) or 0 (NO).
1
DMSFOR605R Enter disk label:
MON303
DMSFOR733I Formatting disk I
DMSFOR732I 50 cylinders formatted on I(303)
Ready; T=0.01/0.01 13:33:58
```

**注意！**

Enter 1 (YES) or 0 (NO). メッセージで入力を促された場合、「1」以外を入力すると NO として認識されフォーマットは実行されません。  
「1」「1」等(1の前後のスペース)にご注意ください。

- ④各ディスクにアクセスし、デバイスエラーが出ないことを確認します。

(例)I(303)ディスクの場合

```
LINK MONWRITE 303 303 MW PASS=MULTIPLE  
ACC 303 I
```

```
LINK MONWRITE 303 303 MW PASS=MULTIPLE  
Ready; T=0.01/0.01 13:27:56  
ACC 303 I  
Ready(00100); T=0.01/0.01 13:28:03
```

- ⑤MONWRITE 仮想計算機をログオフします。

## 第3章 導入手順

### 3.1. MONWRITE 仮想計算機への導入

#### 3.1.1. PROFILE EXEC の導入

- ① Windows コマンドプロンプトより、z/VM システムに FTP 接続します。  
FTP(マシン IP)
- ② ユーザ MONWRITE にてログオンします。
- ③ CD コマンドにて、MONWRITE 191 に移動します。  
CD MONWRITE.191
- ④ 以下のコマンドを実行し、PROFILE.EXEC ファイルを ASCII モードにて PUT します。  
CD-ROM ルート直下の「zVM」フォルダ内にファイルはあります。  
ASCII  
PUT PROFILE.EXEC
- ⑤ 以下の内容でファイル「PROFILE EXEC」が作成されます。

```
/* MONWRITE USER PROFILE EXEC */  
CP MONITOR SAMPLE CONFIG SIZE 1205  
CP MONITOR EVENT CONFIG SIZE 340  
CP MONITOR SAMPLE RATE 2 SEC  
CP MONITOR SAMPLE INTERVAL 5 MIN  
CP MONITOR SAMPLE DISABLE ALL  
CP MONITOR EVENT DISABLE ALL  
CP MONITOR SAMPLE ENABLE PROCESSOR  
CP MONITOR SAMPLE ENABLE STORAGE  
CP MONITOR SAMPLE ENABLE USER ALL  
CP MONITOR SAMPLE ENABLE I/O ALL  
CP MONITOR SAMPLE START  
ACCE SS 303 I  
MONWRITE MONDCSS *MONITOR DISK MONDATA ES1 I  
EXIT
```

- ⑥ 以下のコマンドで FTP を切断します。  
BYE

## 3.2. ES1USER 仮想計算機への導入

### 3.2.1. 各種設定ファイルの導入

- ① Windows コマンドプロンプトより、z/VM システムに FTP 接続します。  
FTP(マシン IP)
- ② ユーザ ES1USER にてログオンします。
- ③ CD コマンドにて、ES1USER 191 に移動します。  
CD ES1USER.191
- ④ 以下のコマンドを実行します。ファイルを ASCII モードにて PUT します。  
ASCII  
PUT(ファイル名)

導入するファイルは以下の 7 つです。

CD-ROM ルート直下の「zVM」フォルダ内に下記ファイルがあります。

PROFILE.EXEC  
WAKEUP.TIMES  
FCONX.MASTER  
FCONX.REPORTS  
FCONX.TRENDREC  
FCONX.SETTINGS  
RUNREXX.EXEC

- ⑤ 以下のコマンドで FTP を切断します。  
BYE

### 3.2.2. 各種設定ファイルの内容

#### PROFILE.EXEC ファイル

```
/* ES1USER PROFILE EXEC */  
CP LINK PERFSVM 200 200 RR READ  
CP LINK PERFSVM 201 201 RR READ  
CP LINK PERFSVM 1CC 1CC RR READ  
CP LINK PERFSVM 29D 29D RR READ  
ACCESS 201 B  
ACCESS 200 C  
ACCESS 1CC D  
ACCESS 29D F  
RUNREXX EXEC A
```

#### **注意！**

上記ファイル内では、Performance Toolkit のモジュールのパスを記載します。  
変更している場合はそれにあわせて変更してください。



## WAKEUP.TIMES ファイル

ALL	00:01:00	PTK
ALL	23:58:00	DATASTOP
ALL	23:58:30	DATASTART
ALL	23:59:30	SLEEP

## FCONX.MASTER ファイル

```
SETTINGS FCONX SETTINGS A
REPORTS FCONX REPORTS A
TRENDREC FCONX TRENDREC A
LISTING FCONX LISTING K
LOG FCONX LOG K
RUNFILE FCONX RUNFILE K
TREND TRENDREC FCXTREND K
```

## FCONX.REPORTS ファイル

```
*-General System Data-----*
CPU
LPAR
SYSTEM
*-User Data-----*
USER      (100  SORT %CPU
USTAT     (100
*-System Load by Time-----*
AUXLOG
USTLOG
```

## FCONX.TRENDREC ファイル

```
RECORDS USER CHANNEL VSWITCH
```

**FCONX.SETTINGS ファイル**

```
FC SET BYTIME 15 MINUTES
FC SET INTERIM 15 MINUTES
FC MON RES 00:00R_T
FC MON RES 00:15T 00:30T 00:45T
FC MON RES 01:00T 01:15T 01:30T 01:45T
FC MON RES 02:00T 02:15T 02:30T 02:45T
FC MON RES 03:00T 03:15T 03:30T 03:45T
FC MON RES 04:00T 04:15T 04:30T 04:45T
FC MON RES 05:00T 05:15T 05:30T 05:45T
FC MON RES 06:00T 06:15T 06:30T 06:45T
FC MON RES 07:00T 07:15T 07:30T 07:45T
FC MON RES 08:00T 08:15T 08:30T 08:45T
FC MON RES 09:00T 09:15T 09:30T 09:45T
FC MON RES 10:00T 10:15T 10:30T 10:45T
FC MON RES 11:00T 11:15T 11:30T 11:45T
FC MON RES 12:00T 12:15T 12:30T 12:45T
FC MON RES 13:00T 13:15T 13:30T 13:45T
FC MON RES 14:00T 14:15T 14:30T 14:45T
FC MON RES 15:00T 15:15T 15:30T 15:45T
FC MON RES 16:00T 16:15T 16:30T 16:45T
FC MON RES 17:00T 17:15T 17:30T 17:45T
FC MON RES 18:00T 18:15T 18:30T 18:45T
FC MON RES 19:00T 19:15T 19:30T 19:45T
FC MON RES 20:00T 20:15T 20:30T 20:45T
FC MON RES 21:00T 21:15T 21:30T 21:45T
FC MON RES 22:00T 22:15T 22:30T 22:45T
FC MON RES 23:00T 23:15T 23:30T 23:45T
FC MON RES 23:58T
```

**RUNREXX.EXEC ファイル**

```
/******REXX*****/
ADDRESS COMMAND

/* LOG,LOG BACKUP FILE NAME */
LOGFILE=ES1LOG LOG A
LOGBK=ES1LOGBK LOG A

/* SWITCH LOGFILE LIMIT LINE */
LOGLINE=200

/* PERFKIT START FOR IPL */

MSG001=PERFKIT START FOR IPL
CALL MSGPUT,MSG001
```

```

CP LINK ES1USER 301 301 MW PASS=MULTIPLE
  MSG001=LINK ES1USER MINIDISK.      RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

ACCESS 301 K
  MSG001=ACCESS ES1USER MINIDISK.    RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

CP LINK MONWRITE 303 303 MW PASS=MULTIPLE
  MSG001=LINK MONWRITE MINIDISK.    RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

ACCESS 303 I
  MSG001=ACCESS MONWRITE MINIDISK.  RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

ERASE TRENDREC FCXTREND K
ERASE MONDATAF ES1 I
RENAME MONDATA ES1 I MONDATAF ES1 I
CP SLEEP 1 SEC
PERFKIT BATCH FCONX MASTER A DISK MONDATAF ES1 I
  MSG001=START PERFKIT              RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

#DAYS = DATE(B)
#DATE = DATE(S,#DAYS,B)
#TIME = DELSTR(DELSTR(TIME()),6,3),3,1)
#TIME = #TIME||TRD
RENAME TRENDREC FCXTREND K #DATE #TIME K
  MSG001=RENAME TREND DATA FILE NAME  RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

ERASE FCONX LOG K
ERASE FCONX RUNFILE K
ERASE FCONX LISTING K
ERASE MONDATAF ES1 I

RELEASE K
  MSG001=RELEASE ES1USER MINIDISK.    RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

CP DETACH 301
  MSG001=DETACH ES1USER MINIDISK.    RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

RELEASE I
  MSG001=RELEASE MONWRITE MINIDISK.  RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

```

```

CP DETACH 303
  MSG001=DETACH MONWRITE MINIDISK.      RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

CP MONITOR STOP

/* MONITOR AUTO START(HH:MM=xx:x0) FOR IPL */
DO FOREVER UNTIL MIN1=0
  CP SLEEP 1 SEC
  MIN1 = DELSTR(DELSTR(TIME(),1,4),2,3)
END

CP XAUTOLOG MONWRITE
  MSG001=MONITOR AUTO START FOR IPL.    RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

/* WAKEUP DAILY ROUTINE */
DO FOREVER
  MAKEBUF
  WAKEUP (FILE)

  MSG001=WAKEUP.                          RC=RC
  CALL MSGPUT,MSG001

IF RC=3 THEN DO
  PULL VAR1
  DROPBUF
  PARSE UPPER VALUE VAR1 WITH ASTERISK REQNO FIELD1 FIELD2 ,
                                     FIELD3 COMMAND

/* DAILY PERFKIT */
IF COMMAND=PTK THEN DO
  CP LINK ES1USER 301 301 MW PASS=MULTIPLE
    MSG001=LINK ES1USER MINIDISK.        RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

  ACCESS 301 K
    MSG001=ACCESS ES1USER MINIDISK.      RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

  CP LINK MONWRITE 303 303 RR PASS=READ
    MSG001=LINK MONWRITE MINIDISK.      RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

  ACCESS 303 I
    MSG001=ACCESS MONWRITE MINIDISK.    RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

```

```

ERASE TRENDREC FCXTREND K
CP SLEEP 1 SEC
PERFKIT BATCH FCONX MASTER A DISK MONDATAF ES1 I
    MSG001=START PERFKIT.          RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

#DAYS = DATE(B)
#DAYS = #DAYS - 1
#DATE = DATE(S,#DAYS,B)
#TIME = DELSTR(DELSTR(TIME(),6,3),3,1)
#TIME = #TIME||TRD
RENAME TRENDREC FCXTREND K #DATE #TIME K
    MSG001=RENAME TREND DATA FILENAME.  RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

ERASE FCONX LOG K
ERASE FCONX RUNFILE K
ERASE FCONX L ISTING K

RELEASE K
    MSG001=RELEASE ES1USER MINIDISK.      RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

CP DETACH 301
    MSG001=DETACH ES1USER MINIDISK.      RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

RELEASE I
    MSG001=RELEASE MONWRITE MINIDISK.    RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

CP DETACH 303
    MSG001=DETACH MONWRITE MINIDISK.      RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001

END

/* MONWRITE STOP */
IF COMMAND=DATASTOP T HEN DO
    CP FORCE MONWRITE
    MSG001=FORCE MONWRITE.              RC=RC
    CALL MSGPUT,MSG001
END

/* MONWRITE START */
IF COMMAND=DATASTART THEN DO
    CP LINK MONWRITE 303 303 MW PASS=MULTIPLE

```

```

MSG001=LINK MONWRITE MINIDISK.      RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

ACCESS 303 I
MSG001=ACCESS MONWRITE MINIDISK.    RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

ERASE MONDATAF ES1 I
MSG001=ERASE MONDATAF.              RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

RENAME MONDATA ES1 I MONDATAF ES1 I
MSG001=RENAME MONDATA FILENAME.     RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

RELEASE I
MSG001=RELE ASE MONWRITE MINIDISK.  RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

CP DETACH 303
MSG001=DETACH MONWRITE MINIDISK.    RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

CP SLEEP 1 SEC
CP XAUTOLOG MONWRITE
MSG001=START MONWRIT E START.       RC=RC
CALL MSGPUT,MSG001

END

/* SLEEP */
IF COMMAND=SLEEP THEN DO
  CP SLEEP 31 SEC    /* SLEEP THROUGH MIDNIGHT */
END

END

END

EXIT

/*****
/* SUBRTN : MSG PUT & SWITCH LOG FILE (LOG -> BACK) */
/*      PARM1 MSG001 : OUTPUT MESSAGE WORD          */
/*      2 LOGFILE: PRIMARY LOGFILE NAME             */
/*      3 LOGBK  : SECONDARY LOGFILE NAME           */
/*      4 LOGLINE: SWITCH LOGFILE LIMIT LINE        */
*****/

```

MSGPUT: PROCEDURE EXPOSE MSG001 LOGFILE LOGBK LOGLINE

```
MSG=20DATE(O) TIME() : MSG001
CALL LINEOUT LOGFILE,MSG
CALL LINEOUT LOGFILE
IF LINES(LOGFILE)>=LOGLINE THEN DO
  ERASE LOGBK
  RENAME LOGFILE LOGBK
  MSG01=LOGFILE SWITCHED          RC=RC
  MSG=20DATE(O) TIME() : MSG001
  CALL LINEOUT LOGFILE,MSG
  CALL LINEOUT LOGFILE
END
RETURN
```

### 3.3. IPL 時の自動データ収集開始設定

- ①AUTOLOG1 仮想計算機にログオンします。
- ②ログオン直後の、決定ボタン（右 Ctrl）を押す前に、以下のコマンドを実行します。  
ACCESS (NOPROF
- ③以下のコマンドを実行します。  
XEDIT PROFILE EXEC A
- ④以下の行をファイル「PROFILE EXEC」に追記します。  
'CP XAUTOLOG ES1USER'

(追記例)

(省略)

```
CP XAUTOLOG TCPIP  
CP XAUTOLOG ES1USER
```

- ⑤保存後、画面を抜けます。  
SAVE  
QUIT
- ⑥AUTOLOG1 仮想計算機をログオフします。

### 3.4. データ収集

#### 3.4.1. データ収集の開始

- ①MAINT 仮想計算機にログオンします。
- ②以下のコマンドを実行し、ES1USER 仮想計算機をログオンさせます。コマンドを実行すると、ログオンスクリプトにより「RUNREXX EXEC」が自動起動され、データ収集が開始します。  
CP XAUTOLOG ES1USER
- ③MAINT 仮想計算機をログオフします。

#### **注意！**

**ES1USER 仮想計算機、MONWRITE 仮想計算機はログオフしないでください。**



### 3.4.2. データ収集の確認

ES1USER の起動により、ログオンスクリプトに設定した「RUNREXX EXEC」が開始されますが、データ収集開始時刻は、時刻の末尾が 0 分（ゼロ分）より開始します。そのため以下の手順にてデータ収集が行われていることを確認します。

- ①「3.4.1 データ収集の開始」の後、時刻の末尾が 0 分を過ぎるのを待ちます。  
(00 分、10 分、20 分、30 分、40 分、50 分)
- ②Windows コマンドプロンプトより、z/VM システムに FTP 接続します。  
FTP(マシン IP)
- ③ユーザ MONWRITE にてログオンします。
- ④CD コマンドにて I(303)ミニディスクに移動します。  
CD MONWRITE.303
- ⑤DIR コマンドにて、「MONDATA ES1」が作成されていることを確認します。
- ⑥5 分後、「MONDATA ES1」の容量が増えている事を確認します。
- ⑦FTP を切断します。  
BYE

(ログオンからの画面例)

```
C:¥work>ftp 10.16.6.10
Connected to 10.16.6.10.
220-FTPSERVE IBM VM Level 530 at SCOC.IBM.COM, 14:41:07 JST FRIDAY 2009-11-06
User (10.16.6.10:(none)): monwrite
331 Send password please.
Password:
230-MONWRITE logged in; working directory = MONWRITE 191 (ReadOnly)
230 write access currently unavailable
ftp> cd monwrite.303
250 Working directory is MONWRITE 303
ftp> dir
200 Port request OK.
125 List started OK
MONDATA  ES1  F      4096      373      373 2009-11-06 15:30:00 MON303
```

(5 分後の画面例)

```
ftp> dir
200 Port request OK.
125 List started OK
MONDATA  ES1  F      4096      385      385 2009-11-06 15:35:00 MON303
```

### 3.4.3. ES1USER のログ書き出し機能について

ES1USER は REXX スクリプトにより実行時に A ディスク配下にログを出力します。ログファイルは 200 行で切り替え、過去 1 世代保管します。

現在使用中のログ : 「ES1LOG LOG A」  
1 世代前のログ : 「ES1LOGBK LOG A」

(ログファイル例)

2011/05/10 23:58:00 : WAKEUP.	RC=3
2011/05/10 23:58:00 : FORCE MONWRITE.	RC=0
2011/05/10 23:58:30 : WAKEUP.	RC=3
2011/05/10 23:58:30 : LINK MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/10 23:58:30 : ACCESS MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/10 23:58:30 : ERASE MONDATAF.	RC=0
2011/05/10 23:58:30 : RENAME MONDATA FILENAME.	RC=0
2011/05/10 23:58:30 : RELEASE MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/10 23:58:30 : DETACH MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/10 23:58:31 : START MONWRITE START.	RC=0
2011/05/10 23:59:30 : WAKEUP.	RC=3
2011/05/11 00:01:00 : WAKEUP.	RC=3
2011/05/11 00:01:00 : LINK ES1USER MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:00 : ACCESS ES1USER MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:00 : LINK MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:00 : ACCESS MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:43 : START PERFKIT.	RC=0
2011/05/11 00:01:43 : RENAME TREND DATA FILENAME.	RC=0
2011/05/11 00:01:43 : RELEASE ES1USER MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:43 : DETACH ES1USER MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:43 : RELEASE MONWRITE MINIDISK.	RC=0
2011/05/11 00:01:43 : DETACH MONWRITE MINIDISK.	RC=0

### 3.5. 補足情報

ここでは、ES/1 の導入に際しての補足情報について説明致します。

#### 3.5.1. FTP 機能（FTPSEVER 仮想計算機）の設定方法

- ①TCPMAINT 仮想計算機にログインします。
- ②PROFILE TCPIP を以下のように編集します。FTP のポートと、自動起動の設定が有効になります。

XEDIT PROFILE TCPIP D

```
(省略)
; -----
AUTOLOG                      ←追加
FTPSEVER 0                   ←追加
ENDAUTOLOG                  ←追加
;
PORT
  20  TCP FTPSEVER  NOAUTOLOG ; FTP SERVER      ←コメントをはずす
  21  TCP FTPSEVER                      ; FTP SERVER      ←コメントをはずす
  23  TCP INTCLIEN                      ; TELNET Server
; 25  TCP SMTP                          ; SMTP Server
; 53  TCP NAMESRV                      ; Domain Name Server
; 53  UDP NAMESRV                      ; Domain Name Server
(省略)
```

- ③SYSTEM DTCPARMS ファイルを開き、以下のように追記します。

XEDIT SYSTEM DTCPARMS D

```
.*****
.* SYSTEM DTCPARMS created by DTCIPWIZ EXEC on 5 Mar 2008
.* Configuration program run by MAINT at 14:09:15
.******
:nick.TCPIP      :type.server
                  :class.stack
:nick.FTPSEVER   :type.server      ←追加
                  :class.ftp       ←追加
```

- ④設定を反映させるためコマンドを実行し、TCPIP 仮想計算機を再起動させます。

TCPIP 仮想計算機が起動後、FTPSEVER 仮想計算機が自動起動します。

FORCE TCPIP

XAUTOLOG TCPIP

#### 注意！

telnet 接続により作業を行っている場合、TCPIP 仮想計算機をログオフすると接続できなくなります。その場合には IPL を行ってください。

- ⑤TCPMAINT 仮想計算機をログオフします。

### 3.5.2. Performance Toolkit のインストール確認とインストール手順

#### Performance Toolkit のインストール確認

- ①PERFSVM 仮想計算機にログインします。
- ②ログイン時の画面を確認します。  
ログインスクリプト (PROFILE EXEC) にコマンドが含まれるためログイン直後の画面を確認します。

Performance Toolkit がインストールされている場合、以下の画面が表示されます。

```
FCX001          Performance Toolkit for VM Autoscroll 12
FCXBAS500I Performance Toolkit for VM FL530
```

```
Command ===> _
F1=Help F2=Redisplay F3=Quit F12=Return
```

- ③上記画面を確認後、コマンド行にて、以下のコマンドで画面を終了します。  
QUIT
- ④PERFSVM 仮想計算機をログオフします。  
Performance Toolkit がインストールされていない場合、以下の画面が表示されます。  
インストールが必要です。「3.5.2.2. Performance Toolkit のインストール」へ進みます。

```
PERFKIT
FCXBAS091I This system has not been authorized for using the program
Ready(00091); T=0.01/0.01 13:00:00
```

## Performance Toolkit のインストール

- ①MAINT 仮想計算機にログオンします。  
②以下のコマンドを実行し、ソフトウェアが導入されているディスクへのアクセスを可能にします。

```
LINK MAINT 51D 51D MR
ACC 51D D
```

```
LINK MAINT 51D 51D MR
Ready; T=0.01/0.01 14:39:11
ACC 51D D
DMSACC724I 51D replaces D (51D)
Ready; T=0.01/0.01 14:39:20
```

- ③以下のコマンドを実行し、Performance Toolkit を enable にして使用できるようにします。  
SERVICE PERFTK ENABLE

```
SERVICE PERFTK ENABLE
..省略..
VMFSUI2706I VMFSUFIN processing completed successfully for product
                    5VMPTK10%PERFTK
VMFSUI2706I VMFSUFIN processing completed successfully
VMFSUI2706I VMFSUFTB processing started
VMFSUI2706I VMFSUFTB processing completed successfully
VMFSUI2706I SERVICE processing completed successfully
Ready; T=5.23/5.62 14:39:20
```

- ④③の画面を確認後、以下のコマンドを実行します。この処理は数分かかります。  
PUT2PROD PERFTK

```
PUT2PROD PERFTK
..省略..
VMFP2P2760I PUT2PROD processing completed successfully for SAVECMS
VMFP2P2760I PUT2PROD processing completed successfully
Ready; T=7.10/7.52 14:39:20
```

以上でインストールは終了です。

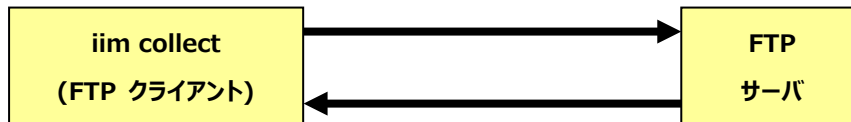
- ⑤MAINT 仮想計算機をログオフします。

## 第4章 iim collect

iim collect は、ファイル収集プログラムです。一般的な FTP クライアントと同様に、FTP サーバに接続しファイルを転送します。本章では、z/VM のトレンドデータの転送に必要な機能についてのみ解説しています。iim collect の詳細につきましては別紙マニュアル「CS-Utility 使用者の手引き」の iim collect の章を参照してください。

### 4.1. 収集方法

FTP による収集を行うには、収集対象のサーバに FTP サーバが必要です。iim collect 自身の FTP クライアント機能によりサーバに接続しますので、別途 FTP クライアントソフトは不要です。



### 4.2. 転送設定

iim collect では、接続先のホストや、接続方式などの転送定義をテキストファイル（INI ファイル形式）に記述します。このテキストファイルを転送設定ファイルと呼び、任意のファイル名で複数作成することが可能です。

#### ■ 転送設定ファイルの例

```
[APPOPT]
HOSTCOUNT=1

[TRANS1]
ADDR=255.255.255.255
PROT=0
USER=ZVMUSER
PASS=loginpass
RDIR=ZVMUSER.123
LDIR=C:¥zvmDATA¥SITE¥SYSTEM
MODE=1
TGTWILD=*TRD
RENPREFIX =*
ZVM=1
ZVMPASS=diskpass
```

転送設定ファイルの作成は iim configuration assistant を使用して行います。iim configuration assistant の詳細につきましては、別紙マニュアル「CS-Utility iim configuration assistant 使用者の手引き」を参照してください。

### 4.3. 実行方法

iimclct configuration-file-name

configuration-file-name には、前記「3.2. 転送設定」で作成した転送設定ファイルを指定します。  
転送設定ファイルが iim collect と同一ディレクトリに無い場合はフルパスで指定してください。

### 4.4. ロギング

iim collect の実行ログはテキストファイル(iimclct ディレクトリ内の iimclct.log)、およびイベントログに記録することが可能です。

ロギングの指定は iimclct ディレクトリ内の iimclct.ini ファイルにて行います。

iimclct.ini ファイルは[LOG]セクションにより構成されます。

[LOG]セクションについては別紙マニュアル「Log Utility 使用者の手引き 8. ログ情報出力レベルの設定」を参照してください。

## 第5章 x2f

x2f は、z/VM の Performance Toolkit が作成するトレンド・レコードを ES/1 NEO CS シリーズで処理可能なフラットファイル形式に変換するアプリケーションです。

x2f は ES/1 NEO CS シリーズインストールフォルダ以下の x2f フォルダにインストールされます。

### 注意！

ES/1 NEO CS シリーズにて扱える TREND データの最小インターバル長は 5 分です。

### 5.1. パフォーマンスデータファイルの配置

z/VM の Performance Toolkit が作成するトレンド・レコードが存在するフォルダは以下の形式である必要があります。<サイト名>と<システム名>は ES/1 NEO CS シリーズにおけるサイト名とシステム名に相当します。

任意のフォルダ¥<サイト名>¥<システム名>¥トレンド・レコード

次の例.1 では、

C:¥zvmDATA¥Tokyo¥sysA フォルダ以下のトレンド・レコードを Tokyo サイトの sysA システム

C:¥zvmDATA¥Tokyo¥sysB フォルダ以下のトレンド・レコードを Tokyo サイトの sysB システム

C:¥zvmDATA¥Osaka¥sysC フォルダ以下のトレンド・レコードを Osaka サイトの sysC システム

として取り扱います。

(例.1)

C:¥zvmDATA¥Tokyo¥sysA¥トレンド・レコードファイル

...

¥sysB¥トレンド・レコードファイル

...

¥Osaka¥sysC¥トレンド・レコードファイル

...



サイト名、システム名について下記の注意を参照してください。

**注意！**

サイト／システム名は全角 31 文字以内、半角 63 文字以内で指定してください。また、下記の文字は使用できません。

- ・半角片仮名
- ・¥ / : , ; \* ? " < > | .
- ・#
- ・機種依存文字（①②③..., I II III..., (株)ドルビネ...等）
- ・JIS X 0201、JIS X 0208（Shift\_JIS、CP932、Windows-31J）に含まれない文字、および、外字

また、Windows のファイル名、ディレクトリ名として使用できない予約名についてもサイト／システム名として使用できません。

- ・CON、PRN、AUX、CLOCK\$, NUL、COM0～COM9、LPT0～LPT9

サイト／システム名は製品間の内部キーやデータの保存フォルダ名等に使用します。  
容易に変更できませんので、将来的に変更する可能性が発生する名前は避けてください。

サイト／システム名として、推奨できない例

- ・次期システム
- ・本番システム
- ・テスト期間中システム

サイト／システム名が反映される箇所

- ・CS シリーズの入力データファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果ファイル名の一部
- ・CS シリーズの出力結果ファイルを格納するフォルダ名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して Web ブラウザで閲覧する際のパス名
- ・CS シリーズの出力結果を Web コンテンツ化して専用データベースに登録する際の識別名

## 5.2. 設定ファイルの作成

x2f を実行する前にトレンド・レコード処理用の設定ファイルを作成する必要があります。

設定ファイルには以下のような内容を記述します。

次の(例.2)の指定は(例.1)のようにパフォーマンスデータファイルを配置した場合の記述です。

(例.2)

type=zvm

target=C:¥zvmDATA

設定ファイルの作成は iim configuration assistant を使用して行います。iim configuration assistant の詳細につきましては、別紙マニュアル「CS-Utility iim configuration assistant 使用者の手引き」を参照してください。

### 5.3. x2f の実行

x2f を実行するには、  
<CS シリーズインストールフォルダ>%x2f%x2f.exe  
を実行します。

x2f の実行時には幾つかのオプションを指定可能です。

x2f.exe のヘルプメッセージを表示します。

```
x2f.exe -h  
x2f.exe --help
```

x2f.exe のバージョンを表示します。

```
x2f.exe -v  
x2f.exe --version
```

現在の設定情報（出力先ディレクトリ、変換元パフォーマンスデータファイルの削除設定）を表示します。

```
x2f.exe -i
```

変換したフラットファイルを出力するフォルダを OUTDIR に設定します。  
初期インストールの状態では ES/1 NEO CS シリーズのインポートフォルダが出力フォルダとなっています。  
デフォルトのインポートフォルダは「C¥IIM\_WORK¥CS¥PDBOUT」です。

```
x2f.exe -oOUTDIR  
x2f.exe --outdir=OUTDIR
```

変換元のパフォーマンスデータファイルを削除する期限を設定します。  
初期インストールの状態では変換元ファイルの削除を行わない設定となっています。  
(設定を行うだけであり、削除は設定に基づき変換処理の実行時に行われます。)  
実行日を含めて KEEPDAY 日以上経過したファイルを削除します。  
KEEPDAY には 0 以上 9999 以下の整数、あるいは-1 が指定可能です。  
KEEPDAY に 0 を指定した場合、変換元ファイルすべてが削除されます。  
KEEPDAY に 1 を指定した場合、更新日付が実行日以前の変換元ファイルすべてが削除されます。  
また、KEEPDAY に-1 を指定した場合、変換元ファイルの削除を行いません。

```
x2f.exe -kKEEPDAY  
x2f.exe --keepday=KEEPDAY
```

変換処理を実行します。-vと--verboseは省略可能なオプションであり指定した場合はより多くの処理情報が標準出力に表示されます。

```
x2f.exe "設定ファイル名"
x2f.exe -v "設定ファイル名"
x2f.exe --verbose "設定ファイル名"
```

変換したフラットファイルは出力フォルダ中に

XF0000\_yymmddHHMMSS.txt

という名前で作成されます("yyymmddHHMMSS"の部分は変換を実行した日時となります)。

また、変換元のパフォーマンスデータファイルは変換が正常に終了した後にリネームされます。リネーム後のファイル名は

FIN. + < 元のファイル名>

となります。

次の(例.4)は「C:¥iim¥cs」フォルダに ES/1 NEO CS をインストールし、「C:¥iim¥cs¥x2f¥zvmconv」ファイルに設定を記述した場合の実行例です。

(例.4)

```
C:¥iim¥cs¥x2f>x2f.exe zvmconv
```

#### 5.4. ロギングの指定

x2fの実行ログはテキストファイル(x2fフォルダ内のx2f.log)やイベントログに記録することが可能です。

ロギングの指定はx2fフォルダ内のx2f.iniファイルにて行います。

x2f.iniファイルの記述について、および情報の出力レベルについては、別紙マニュアル「Log Utility 使用者の手引き 8. ログ情報出力レベルの設定」を参照してください。